たかもり

発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田　高森町公民館
発行人
大洞利雄
㈲89-3200　☎35-8211
印刷所
龍共印刷株式会社

鎮守の杜に春が来たよ、お祭りだ

子どもたちが元気に区内を練り歩きました

上市田伊勢神社春祭り（上市田より）

論説

高齢者よ寸志を抱け！

「全都道府県で人口減・高齢化さらに進行」。今日の新聞の大きな見出しです。15年先長野県の人口も2割以上減り、65歳以上の人口は3割を超えるというのです。今、高齢者はこの現実をどう受け止めればいいのでしょう。「若い者になるべく世話をかけんようにしにゃあ」とか、「ピンピンコロリだ」とかって、それだけで悔いなく余生を全うできるでしょうか？

15年先といえば、息子や孫が地域や町を背負い、この国の担い手にもなっているはずですが、どれだけの高齢者がその細い肩にしがみつけるでしょう。

今こそ、先を見据えて行動を起こさねば、孤独死なんてことも他人事ではなくなるかも―。

誰もが60歳を過ぎると、体力は衰えてくるし、忘れっぽくもなります。けれどしがらみからは解かれて、気力はまだ十分。足腰が丈夫ならまだまだたっぷり生きられそう。そう考えたらシニア時代も到来です。

まずは近くの人に「たまにゃ、一杯どうだな」とでも声をかけて、茶飲み仲間ができれば、支え合えるしボランティアもしたい。仲間の輪が広がれば、寸志も大志になって若い衆に力を貸すこともできそう。例えば、TPP参入で日本の食の安全が脅かされても、子育てや仕事に追われる世代に代わって、休耕地に安全な野菜やお米を作ることができます。若い衆の世話になることより、まず支えて共に生きることを考えたいものです。それから、息子や孫に必ず伝えなければならないこともあります。それは、振り返れば、自分たちは戦中戦後の貧しさの中を「明日こそは…」と、人をかき分けて駆け上がってきた結果、物欲は満たされても心は痩せてしまったことです。だから、真の幸せの在り方を共に考えていく責任もあります。

高齢者よ寸志を抱いて恩送りができるように共に頑張ろう！

ペードライト

保育士として働き始めて4年目。毎日かわいい子どもたちに囲まれて楽しく過ごしています。入園当初泣いていた子どもも、今では保育園に慣れ、「あれもやってみたい！これもやってみたい！」という姿が出てきました。そんな子どもたちの柔軟性やパワーに驚かされ、大人として少しうらやましくも思う日々です。

子どもたちの成長やパワーに負けないよう、保育士として、大人の女性として成長していきたいです。

樋口亜美（上市田）

和やかなじーじばーばの日

子育て支援センターでは、シニア世代の孫育てをしている皆さんが集まって、孫や友だちと遊び、交流を一緒に楽しみ、孫育てや子育ての話をしようという「じーじばーばの日」を開催しています。

4月15日には、子育て支援センターのボランティア「シニア子育て応援隊」の皆さんと一緒に、春爛漫の野原でよもぎ摘みをし自然を満喫しました。この日は応援隊の顔合わせ会も兼ねて、農園にじゃがいも植え作業の日で、ここでもじーじばーばは、大活躍でした。人生の先輩である皆さんは手際よく、いろいろなことを教えてくれるので、若いお母さんたちもこの日を楽しみに訪れる方もいるとか。

アコーディオンおじさんの伴奏で季節の歌を歌ったり、紙芝居を読んでもらったり、応援隊長さん手作りのスライド「さるかに」のお話しも聞きました。よそのじーじやばーばの膝に入って嬉しそうに遊んでもらっているお子さんもいて和やかなひとときでした。世代の枠を超えたこの活動が、やさしさや、人を思いやる心を育み、共に育ちあう場にもなってよい効果をもたらす「じーじばーばの日」にぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか？

春の野原でよもぎ摘み

公民館事業のご紹介

【教養部】

例年通り、文化祭にて展示発表とステージ発表の運営、手作り体験教室を開催します。また、成人式の運営を行います。

◆公民館文化祭　11月15日～17日
◆成人式　1月3日

【編集部】

年間10回、公民館報の発行を行います。また、公民館報研修会に参加し、より読みごたえのある館報の制作に取り組みます。

◆公民館報研修会　6月15日

【視聴覚部】

昔の6ミリ、12ミリフィルムなどをDVDに変換し、眠っている映像を蘇らせる活動を行っていく予定です。

【体育部】

公民館スポーツ大会に加え、今年度は町民運動会実施の年です。町民運動会では実行委員の皆さんと一緒に、盛大に開催します！また、公民館スポーツ大会では、今年度はスローピッチソフトボールとワンバウンドふらば～るバレーを同時開催します。冬にはペタンク大会を開催します。大勢の地域の方と、大いに盛り上がりましょう！

◆スローピッチソフトボール＆ワンバウンドふらば～るバレー大会　7月7日
◆ペタンク大会　2月2日
◆町民運動会　10月13日

また、文化祭でのイベント参加も行います。

【その他】

公民館では、随時学習会を企画し、実施しています。「こんなことを学んでみたい！」など、ご意見がありましたらぜひお寄せください。

7月7日　同時開催をします!!

三面鏡

東日本大震災から丸2年が経った。今では余震の緊張感も薄れ、日々目まぐるしい日常を送っているが、被災地では復興らしい復興は一向に進んでいない▼今年3月、浦安市で液状化した地盤から突出するマンホールを、震災の記念建造物として保存するため、柵で囲う等の工事を終えて完成した。周辺住民からは「恐怖を思い出す」等反対の声が多い中、行政側が強引に押し切った形だったので、お披露目式典はなかったようだ▼また、陸前高田市では震災前、7万本もあった松の中で1本だけ残った松が、被災地で「奇跡の一本松」「復興の象徴」とされていた。しかし、塩害で根腐りし枯れ始めたため、伐採し切断した後、芯を抜き内部に金属棒を通す等、大々的な加工を施し、プラモデルのような姿で再び立てられた。その費用1億5千万円▼確かに震災を風化させてはいけないし、被災者にとって何が心の支えとなるのか計り知れないが、道もインフラも整備されず、人も戻れない町でこの義援金の使い方にも、浦安市のそれにも行政と被災者との温度差を感じる。あの日から国民が一丸となり、被災した人々の心情を思い、1日でも早い復興を願ったが、被災地では今なお2年前と変わらない悲劇と共に非日常的な暮らしを強いられている▼震災は自分たちにも起こり得る事態であるからこそ、行政と住民との連携を大切にしなければならない。

吉田の春祭り「子ども獅子笛隊」の立ち上げ

吉田神社の春祭りが3月23・24日に行われました。心配していた天気も見事に晴れ渡りお祭り日和でした。

ここ数年、伝統芸能保存会獅子部の指導で、保育園児の可愛らしい獅子舞が祭りをより楽しくしてくれるようになりました。この子ども獅子に合わせてぜひ「子ども獅子笛隊」を立ち上げたいという願いがありました。そこで24年1月、吉田支館が計画し、4地区のPTA支部長さんを通して呼びかけてもらい「子ども獅子笛隊」ができあがりました。今年は更に人数が増えて、獅子部の笛の師匠である松下信義さんの指導の下、練習を積み重ねました。祭りが近づくと練習回数も増えて、笛の音色も大きくなります。祭り当日は紙製の大きな獅子頭を一生懸命振りかざす保育園児、その傍らで、これまた一生懸命笛を吹く子どもの姿は微笑ましく、見守る大勢の観衆から驚きの声と拍手がわきあがりました。

祭りのできる地区はまとまりがある地域であるといわれます。「子ども獅子笛隊」の中から、また、見ている子どもたちの中から、ひとりでも伝統芸能に関心を持ち、継承してもらえればこれに勝るものはありません。

かわいい「子ども獅子笛隊」メンバー

「春休み自然観察教室」
―自然の中で見つけた宝物―

3月26日（火）、役場環境水道課主催の「春休み自然観察教室」が、午前中は幼児を、午後は小学生を対象に開かれました。

小学生の部には、大丸山公園に120人ほど集まり、元気な声が響き渡りました。

講師は、松川青年の家の、爽やかな笑顔の松尾雅子さん。はじめに体を動かして、楽しく遊んでから、6人ずつのグループに分かれて、松尾さんから宝探しのヒントを書いた紙をもらい、協力し合いながら、30分ほど公園の中を探しまわりました。

①トゲトゲした物②大きな若葉③誰かが食べたあと④木の実⑤抜殻⑥音のする物⑦臭いのする物⑧おもしろい物⑨あなたの笑顔。この9つのユニークなヒントをもとに、子どもたちはいろんな目線と感性で思いもよらない宝物を集めてきました。よもぎ、蝉の抜殻、どんぐり、松ぼっくり、杉の葉、きのこ、動物のうんち、虫くいの葉、繭、かまきりの卵など、ぞくぞくと宝物が見つかりました。最後に、グループ代表が前に出て、発表し合いましたが、中にはゴミもたくさんあり、考えさせられました。

友だちとわくわくしながら自然と関わり、笑顔の花を次々と咲かせることのできた楽しいひとときでした。

自慢の宝物を見せ合う子どもたち

新婚さん今日は

今回ご紹介する新婚さんは、小島剛士さん・麻央さんご夫妻です。地元出身の剛士さんと愛知県出身の麻央さんは21歳同士。初々しいカップルにお話を伺いました。

お二人は、剛士さんの両親、おじいさん、おばあさん、姉、兄と一緒にお住まいです。なんと三世代夫婦がそろった8人の大家族です。

そんなお二人の出会いは、高校卒業後に進学された愛知県の農業大学校だそうです。同じ畜産科を専攻された同級生で、最初は仲の良いグループで遊んだりするうちに、自然に二人のお付き合いに発展していったそうです。剛士さんは車が大好きで、デートはもっぱら目的地を決めないドライブだったとか。付き合い始めて2年目には結婚する意志を固め、卒業と同時に剛士さんの実家で生活を始められ、この3月に入籍されました。

小島 剛士（たけし） 麻央（まお） さん（下市田4）

現在、剛士さんは畜産、麻央さんは果樹の関係の仕事をされています。お二人の共通点は、何といっても、牛や豚などの動物が大好きなこと。農業大学校では、動物の飼育の実践、オーストラリアへの海外研修とファームステイ体験、そして農業経営に必要な知識や技術等を勉強されたそうです。お二人にとって共通の話題は畜産の専門的なこと。麻央さんは、剛士さんの仕事の一番の理解者でもあるのです。また剛士さんは、毎日お弁当を作ってくれる麻央さんについて「結婚するまではあまり料理をする機会がなかったけど頑張ってくれている。計画性があってしっかりしている」と、信頼されている様子が優しい表情から伝わってきます。

最後に麻央さんに、大家族の一員になった感想を聞くと、「にぎやかで話し声が絶えないです」と笑顔で答えてくれました。

公民館主事交代

前主事　寺沢正寿

この度の人事異動により、公民館主事を退任することになりました。着任以来、多くの皆様方のご理解ご協力のもと、各事業を遂行できましたことに感謝申し上げます。

2年前には東北の震災がありましたが「人と人との繋がり、ふれあい、絆の大切さ」を改めて感じました。公民館の仕事を通して、地域の繋がりが持てる事業をもっとやりたかっただけにちょっと心残りですが、公民館事業から学んだことを次の職場にも活かしていきたいと思います。

3年間という短い期間ではありましたが、大変お世話様になりました。

新主事　宮下誠

皆さんこんにちは。この度、4月の人事異動により、公民館主事を引き継ぐことになりました。もとより微力でありますが、諸先輩方が永年培ってきた公民館活動の一端を担うことになりました。今まで地域の公民館活動に参加しておりますが、公民館を取り巻く状況は生活スタイルの多様化等により運営が大変厳しい時期を迎えております。多くの住民の皆さんが、公民館を地域づくりの拠点としてご活用いただき、足を運んでいただけるように努めて参りたいと思います。気軽にお声掛けください。よろしくお願いします。

今年度 公民館職員体制

公民館長　大洞利雄
社会教育指導員　宮島達朗
公民館主事　宮下誠
　　木村紘太

※社会教育指導員も交代しました。次号でご紹介致します。

地球温暖化防止活動68
水力発電を考える

たかもり環境塾

WWF（世界自然保護基金）の2050年の日本のエネルギー供給のシナリオでは2010年比で、太陽光発電は142倍、風力発電（陸・洋上）43倍、太陽熱36倍、バイオマス熱利用37倍、地熱発電26倍、となっていますが、バイオマス発電2倍、水力発電は1.3倍とほとんど増えていません。なぜでしょうか。すでに今まで作られたものがあることと、水量がかなり不安定になっているからではないでしょうか。

雨が降るとたちまち豪雨となって身近な小河川は溢れんばかりですが、翌日には嘘のような流れに変わっていることに気づきます。天竜川も数日雨が降らないと川底の石がゴロゴロと顔を出してきます。

アルプスの麓の駒ヶ根高原や安曇野では豊富な水量を得られますが、かつては260箇所の水車が回り4箇所では発電もされていたこの町の川の様子は、今気候変動によって、かなり様子が変わってしまっています。アメリカのミシシッピー川もハリケーンがあると洪水、干ばつがあると漁業はもちろん、船が座礁してしまって水運不能、水力発電も不能、あの大量の水を必要とするシェールガスやオイルの発掘も禁止されるところもあるということです。